

令和5年1月6日 佐藤

～ これからもさらに住みよいまちづくりを進めていきます ～

区の人口が28万人を突破

令和5年1月6日（金）に、住民基本台帳上の本区の人口が28万人を突破したことを確認しました。

昨日時点で確認されている人口は28万23人。28万人の達成を受け、本日、区役所に出生届を提出した成富さんご夫妻は山本 亨 区長と記念撮影を行いました。

成富さんは、3人目のお子さんが生まれたとのことで、本日出生届の手続きに来庁。「墨田区に住んで8年となりますが、買い物や散歩なども区内で完結できるので、子育て世代にはとても住みやすいまちです。」と、にこやかに話してくれました。

東京都の人口は、12月1日時点で9か月ぶりに減少に転じましたが、本区においては、若年層の転入を主な要因として増加が続いています。これは、近年の都心回帰の傾向や交通の利便性に加え、東京スカイツリー開業による住宅地としての知名度の向上だけでなく、新型コロナウイルスへの対応や保育所の待機児童対策をはじめとする子育て支援施策の取組、さらには憩いの場となる公園整備など、この間の「暮らし続けたいまち」の実現に向けた、区の取組が広く評価されたものと考えられます。

令和4年度に改定した「墨田区基本計画」では、令和7年の計画人口を28万6千人と設定しています。新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、人口増加のペースは鈍化することが予想されますが、長期的な視点では、転入者の増加により、今後も引き続き人口が増加するものと想定しています。

人口28万人突破を契機に、さらに地域の力を高め、より魅力ある地域づくりを推進し、今後も「暮らし続けたいまち」の実現に向け、さらに暮らしやすいまちづくりを目指していきます。

《写真》



《墨田区の人口変遷》

戦災に見舞われた昭和20年、当時約7万7,000人だった墨田区の人口は、戦後の復興が進み、景気の回復を伴って再び増勢に転じ、昭和38年には32万6,234人となり、戦後における本区の人口の最高を記録しました。

その後、人口の過密化に伴う生活環境の悪化や地価の高騰、事業所の移転等により減少に転じ、

平成9年4月には21万9,667人にまで減少。その後は都心回帰などを背景に徐々に増加に転じ、平成30年4月に27万人を超え、この度、令和5年1月5日に住民基本台帳人口が28万人を突破したことを確認しました。

また、平成30年4月1日から令和4年4月1日の人口推移を年代別で見ると、20歳代と50歳代の増加が目立っています。地域別では、緑・亀沢・石原などの南部地区のほとんどで人口が増加しており、北部地区においても向島・八広などをはじめとした地区で人口が増加しています。

《山本 亨 区長コメント》

本区の人口が28万人を突破したことは、これまで区が推進する暮らしやすいまちづくりによる取組の成果であり、大変うれしく思っております。人口が増える「まち」は、将来性にも期待されているということでもあり、今後も本区にお住まいの28万区民の行政ニーズに的確に対応し、『暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち すみだ』の実現に全力で取り組んでいきます。

《問い合わせ》 政策担当 03-5608-6231

お問合せは午後5時までにお願ひします。(広報広聴担当 03-5608-6220)